



活発な意見や要望が交わされました

12/13

女性部役員と 意見を交換 JA女性部

JA役員との意見交換会を開き、女性部活動について活発な意見や要望を交わしました。佐藤幸子部長は「営農経済センターと支店の再編により不便もあるが、Aコープ商品の共同購入利用や担当職員のサポートで引き続き活発な活動をしていきたい」と話しました。



鳥獣被害対策の説明を聞く生産者

12/14

野生動物の特性などに理解 JA酪農部会

磐井地方乳牛改良検定組合と共催で令和5年度酪農講習会を開きました。部会員や関係機関40人が参加し、鳥獣被害対策や酪農情勢について学習。管内で撮影された野生動物の動画を見ながら特性を踏まえた電気柵の設置方法や管理について理解を深めました。



完成した作品に笑顔の女性部員

12/1

辰の正月飾りで新年迎え JA女性部一関中央支部秋荘支部

家の光記事を活用して今年の干支の辰の正月飾りを作りました。参加した部員9人は、フェルトに型紙を写して裁断し、各パーツを縫い合わせて綿を詰める細かい作業をスムーズに進め完成させました。正月飾りは玄関などに飾り、新年のスタートを迎えました。



完成した短冊に喜ぶ部員

12/12

干支の辰の短冊を制作 JA女性部東山中央支部

干支の押し絵教室を開き、生活シーダーの鈴木洋子さん（東山）の指導で、部員6人が干支の辰のさくらほりきりの短冊を制作しました。パーツの多さと細かい作業に苦戦しながらも互いに教え合い、干支の辰の部分を立て感が出るように工夫し完成させました。



あんこ餅を作る会員

12/16

感謝を込めて餅振る舞い JA女性部花泉中央支部

ふれあい野菜市感謝祭をふれあい野菜市直売所で開きました。日頃のご愛顧と感謝を込めて、JA職員も協力し、あんこ餅や納豆餅などを作り来店者に振る舞いもてなしました。来店者はつきたてのおいしい餅料理に舌鼓を打ち、笑みがこぼれました。

12/25

旬の果物で よい年越しを

児童養護施設一関藤の園に旬の果物などを贈り、施設で暮らす子どもたちが年末年始を健やかに過ごせるよう願いました。りんごジュースの他、取引市場の協力を得て提供されたミカンやJA全農ニッポンエールグミなどをJA役職員が届けました。



渡部俊幸園長㊤に手渡す那須元一常務㊤と佐藤克徳営農部長

12/19

お正月用料理4品に挑戦 JA女性部花泉中央支部



完成した料理を詰める部員

地産地消活動グループはお正月料理教室を開き、JA生活シーダーの伊東澄子さん（藤沢）の指導で、家の光記事を活用して「お宝巻き蒸し」「お豆やひじきのベジキッシュ」など4品を作りました。参加者は手際よく調理し、新年を彩る料理の完成に笑顔が広がりました。

12/19

身体拭きなどに役立てて JAハートフル川崎支部



タオルが入った箱を手渡す菅原支部長㊤

入所者の体拭きや施設清掃に役立ててもらおうと、特別養護老人ホーム寿松苑（川崎）に部員6人がタオル60本を贈り、入所者が元気に過ごすことを願いました。菅原君代支部長は「役に立てる活動をしたと思う、初めてタオル寄贈に取り組んだ」と話しました。

12/28

五穀豊穡願いしめ縄奉納 7区注連縄の会（平泉）



毛越寺の山門に大しめ縄を取り付ける会員

大しめ縄を毛越寺に奉納し、山門への取り付けを行いました。大しめ縄は、長さ6メートルで中央の最も太い部分の胴回りは1・1メートル、重さは約50キロ。会員10人が、五穀豊穡を願い12月初旬から製作を開始。大小19本のしめ縄を製作し、町内外の神社などに奉納しました。

12/18

大豆や豆腐作りに 理解深め 巖美小学校（一関）



教わりながら豆乳を温める児童

3年生15人は豆腐作りの体験学習を行いました。JA女性部一関中央支部市野々支部の指導で、4グループに分かれて豆乳から豆腐を作る工程に挑戦。須藤悠くんは「いつも食べている豆腐と違い、濃くて甘い味で驚いた」と目を丸くしました。



最高値に喜ぶJAの那須常務(左)とJAピーマン部会の及川泰雄部会長

1/5

宝船が縁起よい 最高値に

盛岡市中央卸売市場の初市式と初競りが開かれ、管内の農畜産物を乗せた宝船が最高額の10万円で競り落とされ幸先の良いスタートとなりました。JAの那須元一常務理事は「この宝船を契機に今年が豊作で高値取引されることを願いたい」と期待を膨らませました。

1/7

初出荷で高値取引を期待 JA肥育牛部会



高値販売を期待し初出荷するいわて南牛

いわて南牛の令和6年初出荷式を開き、部会員や関係機関が玉串をささげ礼拝し、今年の安全な出荷と高値販売、産地の発展を祈願しました。去勢11頭と雌1頭が初出荷。佐藤良部会長は「高値取引を願い、この難局を乗り越っていきましょう」と呼び掛けました。

1/10

本格出荷に向け目ぞろえ JAいちご生産部会



出荷規格を確認する生産者

イチゴの目ぞろえ会を開き、出荷最盛期を前に出荷規格や今後の栽培管理を確認し、良品質出荷に向けて意識統一を図りました。一関農業改良普及センターの小森貴大技師は「なり疲れに注意し、適切な着果調整と温度管理をしてほしい」と説明しました。

1/16

基本法改定の焦点に理解 JAいわてグループ



田宮常務取締役の説明を聞く参加者

JAいわてグループ農政フォーラムが盛岡市で開かれ、総勢約700人が出席しました。管内から組合員やJA役職員110人が参加。(株)日本農業新聞の田宮和史郎常務取締役が食料・農業・農村基本法の見直しと今後の動向などについて説明しました。

1/15

安定生産に向け剪定学ぶ JA果樹部会りんご専門部



剪定のポイントを学ぶ生産者

りんご剪定指導会を管内2園地で開き、管理作業の効率化や安定生産に必要な枝の整え方、剪定のポイントを学びました。剪定作業の労力軽減につながるため充電式剪定はさみの紹介と実演では、切断可能な枝の太さや使用感などを実際に確かめました。

1/23

産地の維持拡大に向けて

J Aいちご生産部会

通常総会を開き、令和5年度の事業報告や令和6年度の事業計画など提出された全議案が承認されました。令和6年度はクレームゼロ、品質の安定化を目指し、販売計画を4800万円に設定。出荷優良表彰では佐藤忠由さん（花泉）が最優秀賞に輝きました。



最優秀賞に輝いた佐藤さん㊟

1/20

いわて南牛を消費拡大へ 一関市・いわて南牛振興協会



試食を提供しながら消費拡大をPR

地産地消フェア（スタンプリー）の開催初日に、いわて南牛消費拡大フェアをJ Aファーマーズいわて平泉で開きました。いちのせき農産物アンバサダーによる試食販売やレシピ紹介の他、抽選も行いました。フェアは2月25日まで30店舗で開催しています。

1/11

高値取引と産地発展を祈願 J A全農いわて

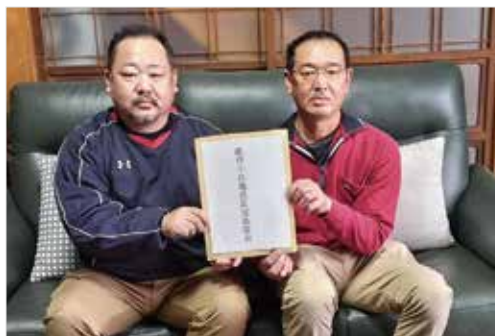


高値取引に願いを込めて鏡開き

当J A管内の初競りが県南家畜市場で行われました。初競りに先立ち、関係機関の代表者が鏡開きを行い、J Aの佐藤鉦一組合長の音頭で乾杯し、今年初めの取引スタートと高値取引、産地の発展を祈願。去勢143頭、雌101頭が販売されました。

1/22

能登半島地震への手助けを



能登半島地震へ災害義援金を送ります

滝ノ沢部落農家組合（平泉）と竜ヶ坂地区農家組合（平泉）は、石川県で発生した能登半島地震の災害義援金10万円を15区自治会（平泉）とともに送りました。少しでも力になりたいという思いから地域の人たちと話し合い、日本赤十字社に送金しました。

1/22

稲作体験などを意見交換



各小学校の稲作体験活動を共有

令和5年度J A稲作体験事業にかかる意見交換会を開き、管内の小中学校での稲作体験学習に対する活動報告や課題などを共有しました。水田提供者の千葉健一さん（東山）は「田植えや稲刈りは父兄や祖父母からも協力を得ることを考えてほしい」と提案しました。